



町長エッセイ



夏休みが終わりました。海や山に出かけた人も多いと思います。

先日、埼玉伝統工芸会館で開催された「世界の昆虫展」に立ち寄りました。「ぼくとわたしの昆虫たち」とあり、かつて夏休みの自由研究作品の中には、昆虫採集の標本が必ず入っていたことを思い出しました。小川町在住のおふたりを中心に、小川昆虫研究会の人たちが長期間にわたって採集した蝶の数々と、カブトムシ、セミ、タマムシ等々1万点もの標本が並んでいました。「世界の昆虫の種類は18

0万種、自然とみどりの大切さを知っていただくために蝶や甲虫を展示しました」とありました。

町内には地域で自然保護に取り組んでいる方々があります。オオムラサキ（国蝶）を保護育成し、野山に戻す活動をしている下小川三区コミュニティ倶楽部もその1つです。オオムラサキの林づくりは、仙元山の北斜面にエノキを植えることから始め、オオムラサキの幼虫の保護や飼育に取り組み、毎年放蝶会を開いて自然に帰しています。

小川町の森や河原に蝶やホタルが飛翔する姿があちこちで見られるような、豊かな自然の残る町を、多くの皆さんの協力を得て実現していきたいと考えます。